

(7) 近 畿



近畿地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

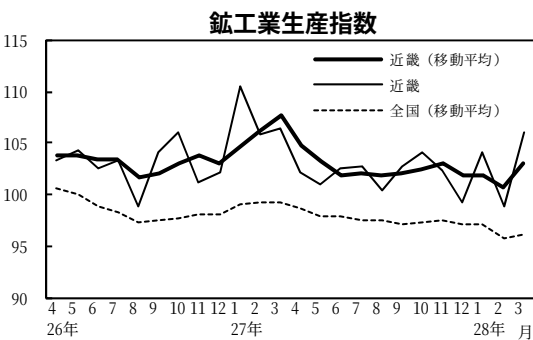
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 28 年 2 月）	今回（平成 28 年 5 月）	
景況判断	緩やかな回復基調	<u>一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調</u>	↓
個人消費	持ち直しの動き	<u>持ち直しの動きが続いているものの、足踏み</u>	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

1～3月期は、はん用・生産用・業務用機械は、ガスタービン等が増加したことにより増加となった。化学は、減少となった。電気機械は、車載用のリチウムイオン蓄電池等が増加したことにより増加となった。輸送機械は、乗用車等が減少したことにより減少となった。



(備考) 1. 22 年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は後方 3 か月移動平均。

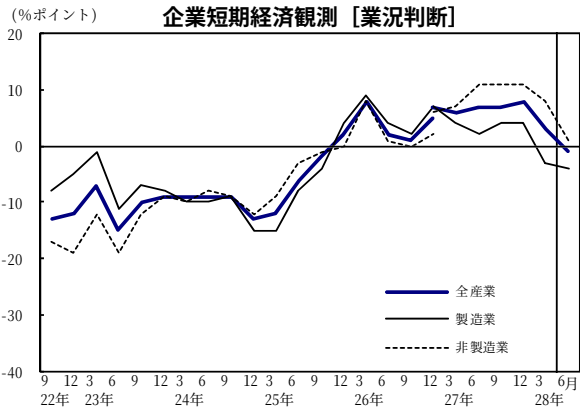
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
はん用・生産用・業務用機械	17.4	▲0.1	1.0	6.0	▲9.3	22.9
化学	16.8	▲1.2	▲0.6	▲0.9	6.1	▲2.5
電気機械	9.0	3.7	4.9	6.3	▲2.4	3.5
輸送機械	8.4	0.8	▲2.5	0.6	▲4.4	11.9
食料品・たばこ	6.7	▲0.8	2.0	▲1.7	6.6	0.4
鉱工業	100.0	▲0.1	1.1	4.9	▲5.0	7.3

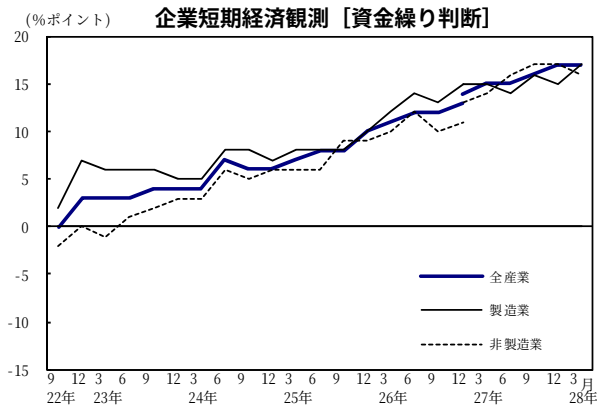
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。
2. 1～3月期、3月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

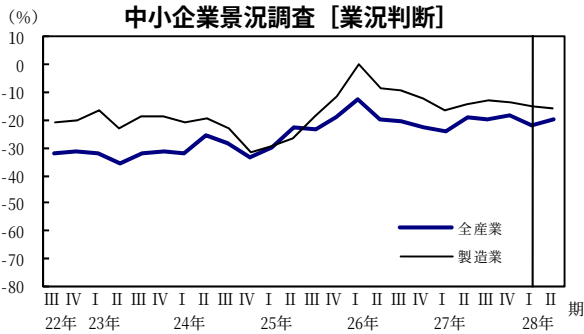
①企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。28年6月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

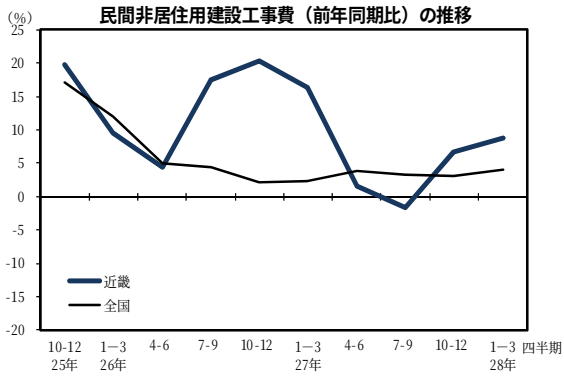


(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。28年II期は見通し。

②景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[企業動向関連（現状）]

「3月末の完了工事が一段落し、技能労務者不足も落ち着いてきている（建設業）」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資（3月調査）]

(前年度比、%)

	27年度実績見込み	28年見通
全産業	0.6(▲1.7)	0.8
製造業	14.9(▲1.7)	2.7
非製造業	▲7.5(▲1.8)	▲0.6

(備考) () は前回 (12月) 調査比修正率。

(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられるものの、足踏みがみられる。

①地域別消費総合指数（RDEI（消費））

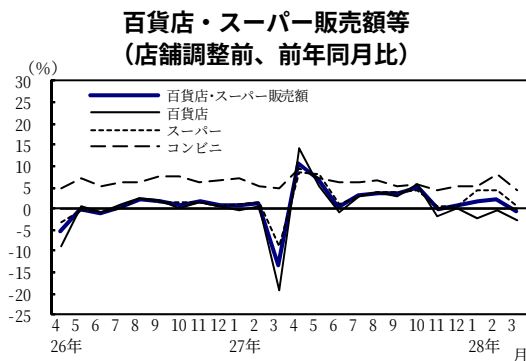
1月は前月比0.4%増、2月は同1.1%減、3月は同3.1%増となった。

②百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、上旬の気温高により冬物衣料が不調であったこと等から前年を下回った。2月は、訪日外国人観光客による購買によりその他の商品等が好調であったものの、引き続き気温高により冬物衣料が不調となり前年を下回った。3月は、気温低下により春物衣料が不調であったため、前年を下回った。
スーパーは、その他の衣料品等が前年を下回ったものの、飲食料品が好調に推移したことにより、前年を上回った。

③景気ウォッチャー調査（4月調査結果）【家計動向関連（現状）】

近畿地域の家計動向関連DIは、40.7となり前月より1.7ポイント低下した。「比較的低価格の商品を取り扱っているが、利用者の数は前月から減り始め、前年比での減少幅が大きくなっている。客との会話でも、収入が増える見込みもないので、日々の支出を節約しているとの声が聞かれる（その他飲食「コーヒーショップ」）」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

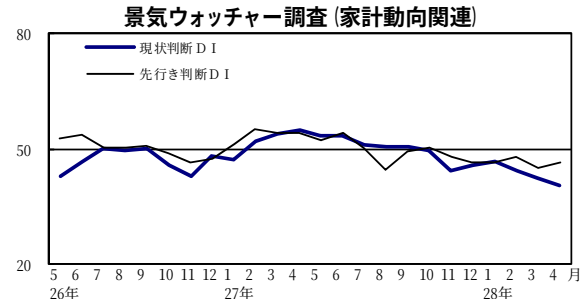
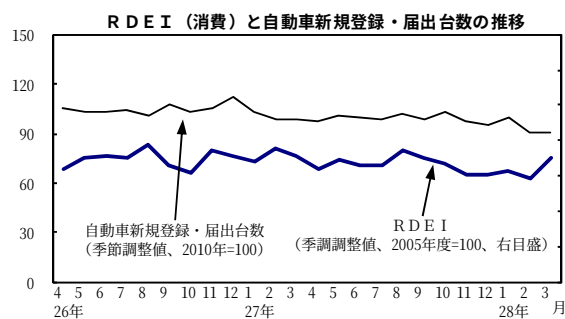


	28年1-3月	28年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.2	0.4	▲1.1	3.1
百貨店・スーパー(*2)	1.1	1.6	2.3	▲0.6
百貨店(*2)	▲1.8	▲2.2	▲0.4	▲2.5
スーパー(*2)	3.0	4.2	4.2	0.7
コンビニ(*2)	5.9	5.2	8.3	4.4
乗用車(*3)	▲6.3	▲3.9	▲7.6	▲6.7
(季節調整値)(*3)	▲4.7	5.1	▲9.4	0.2

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

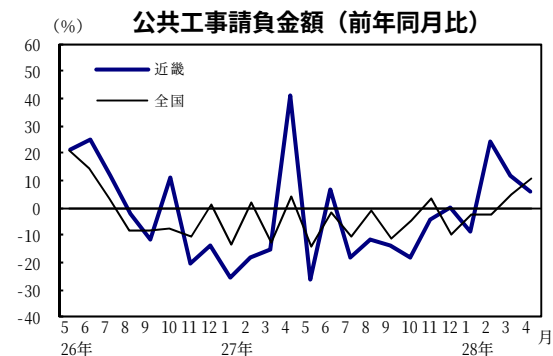
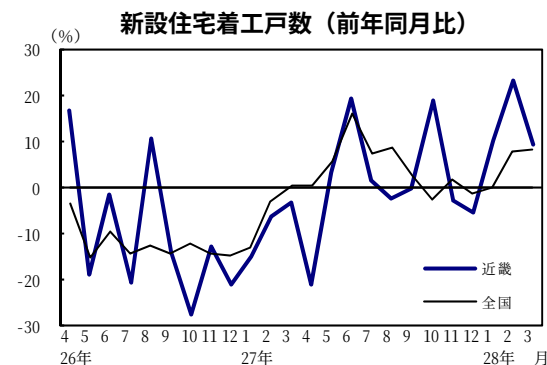
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は27年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

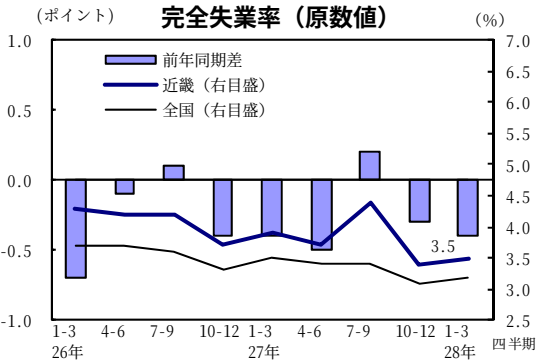
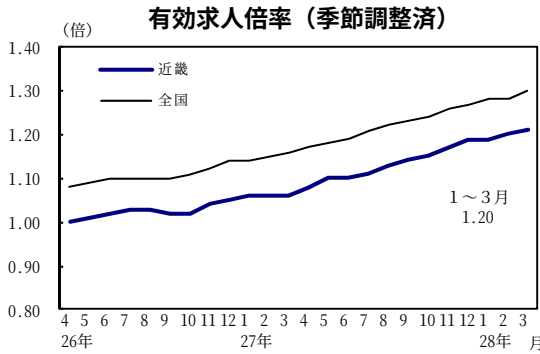


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

①有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



②景気ウォッチャー調査（4月調査結果）【雇用関連（現状）】

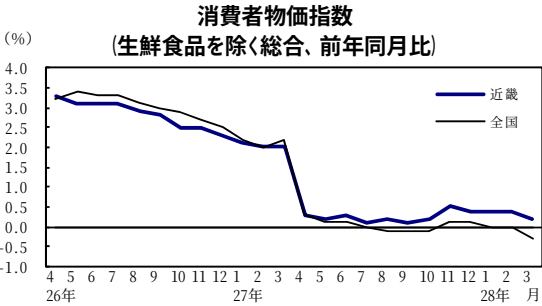
「求人数は依然として多く、人材が採用できていない企業が多いため、現在の良い環境が続くと予想される（民間職業紹介機関）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が横ばい。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年4-6月	7-9月	10-12月	28年1-3月	28年4月
倒産件数 (前年比)	591 ▲11.8	541 ▲13.3	531 ▲9.1	527 ▲5.6	179 ▲5.3
負債総額 (前年比)	661 ▲36.2	503 ▲40.5	479 ▲33.0	948 12.6	203 47.7



○ 景気ウォッチャー調査（4月調査結果）【合計（景気判断において熊本地震に言及したもの）】

<現状>

- 熊本地震の影響が大きく出ている。個人の一般客はほぼキャンセルとなり、行き先を振り替えるのではなく、時期を改めるといった動きが多い。教育旅行の客は、時期や方面の変更となるが、行楽については地震の後は控えるといった動きが出ており、状況はかなり悪くなっている（旅行代理店）。

<先行き>

- インバウンドの動きもやや落ち着いた様子であり、客単価は今後下がると予想される。熊本地震の影響は当分続くため、各地で自粛ムードになる（都市型ホテル）。

